

## 名刺を基とした個人情報管理システムの開発

3Q-9

森本和則, 早川栄一, 高橋延匡  
拓殖大学大学院 工学研究科 電子情報工学専攻

## 1. はじめに

近年では、計算機が安価になり、個人で一台の計算機を利用することが一般的になってきたため、個人的な情報を計算機に入れて管理したいという要求がふえてきた。しかし、個人情報には、メモなどの断片的なものから画像のようなものまで様々である。それらの情報を汎用的なデータベースで管理するのはデータ型が不定、関連付け、見え方が変わるので、蓄積したデータを十分に活かしきれない。

本研究では、名刺を基本データとして、そこへ個人情報を付加したシステムを開発する。

## 2. 問題分析

システムの開発において、名刺を個人情報の基点として扱ううえで、名刺にはいくつかの問題点がある。

- ①名刺はサイズが小さいので、紛失しやすい。
- ②写真や地図などの画像データを管理できない。
- ③個人情報を書き込むスペースが少ない。
- ④大量になると必要な名刺を探す事ができない。

さらに、世の中に出回っている名刺管理システムには、次の問題点がある。

- ①名刺管理はできるが、個人情報の管理ができない。
- ②文字データだけで、画像データを扱う事ができない。
- ③データを上書きしていくため個人の役職や住所などの変化を知ることができない。

## 3. システムの特徴

これらの問題を解決するために、次の特徴を持つ名刺管理システムの開発を行う。

- ①個人的な名刺の情報を管理するページを用いる。そのページをまとめる事によって、名刺の管理を行う。
- ②断片的な情報をまとめて一つのページとし管理を行う。
- ③スキャナなどから入手した画像とリンクできるようにする。
- ④時間順の管理を行う。

これらの特徴をふまえて、画像や文字データについて、データを保管したり識別単語をつけて検索し、スキャナで名刺などを読み込ませて、OCR (Optical Character Reader : 光学式文字読み取り装置) などと組み合わせて名刺や住所録の管理を行なう。

## 4. システムの設計

ここでは、名刺管理システムの設計について述べる。

## 4. 1 ページ

本システムは、名前や勤務先住所、自宅住所などの文字データ、特徴や性格と言った断片的なメモ、写真や地図などの画像データの各データをページとしてまとめ管理している。ページは、勤務先住所ページ・個人住所ページ・画像ページといった様々なページから構成されており、ページの作成された時間を付け加えられている。そして、それぞれのデータを上書きするのではなく新たに作成する。これらの、ページの作成された時間を設ける事とデータを上書きせずに新しく作成する事によって、役職や住

Development of personal data management system base on business card

Kazunori Morimoto, Eiichi Hayakawa, Nobumasa Takahashi

Takushoku University

所、家族構成の変化を知る事ができ、個人情報の歴史ができる。歴史が作成される事によって個人情報としての価値は大きなものになる。

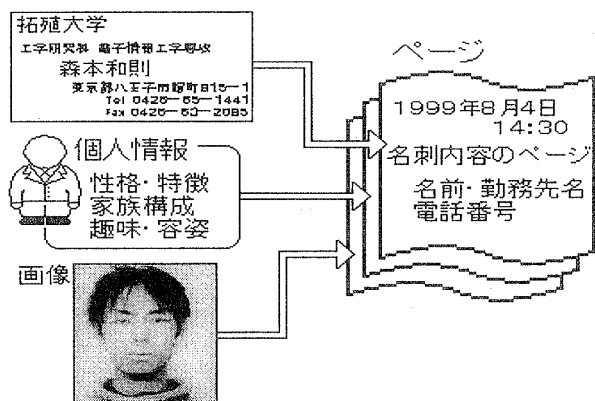


図1. ページのイメージ図

#### 4.2 リスト

これらの複数のページが集まって一つのリストが作成される。一人につき一つのリストが存在し、このリストの中には、1999年の勤務先データ、個人データ、画像データといった各データや1990年、1985年といったそれぞれのデータが存在する。この様に、リストで個人の歴史や名刺の管理を行なう。

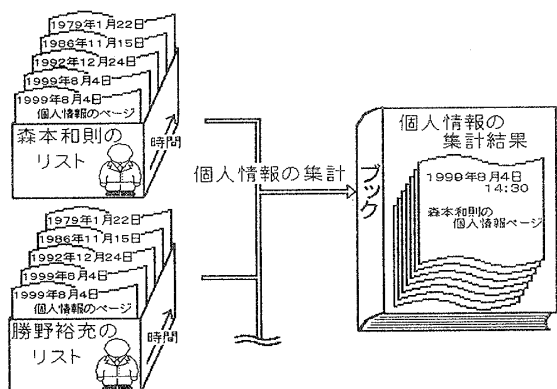


図2. リストとブック

#### 4.3 ブラウザと検索

ページに書かれている名前や勤務先名・特徴といった文字データをもとに検索などを行うことになる。この他、人の印象や勤務先の地図など、文字では表

現できないものや、画像の方が容易に説明できる情報もあるため、画像の一覧表示や日付けなどで検索を行なう。この検索結果をブックとして扱うこととする。そして、検索結果をそれぞれの作業にあわせてページを選択し、そこにまとめられているデータを参照したり、新しく追加したり画像に書込みを行なう事によって名刺の管理を行うこととする。

データの検索には次のものを用意することにより、さまざまな条件で検索ができる。

- ①名前などの文字列を入力して検索
- ②メモの断片的なデータからキーワードを入力して検索
- ③画像一覧表示からの検索
- ④日付けによる検索

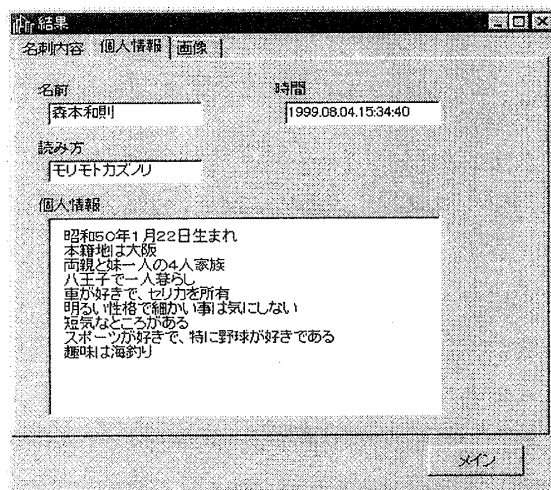


図3. 表示画面

#### 5. 最後に

本発表では、本システムの背景、基本設計を中心に述べた。現在は、基本的な住所管理は可能になった。今後は、システムを完成させ実際に使用して、評価することである。

#### 参考文献

[1] メディアドライブ株式会社  
e.Contact v2.0 ユーザーズガイド 1998